

国立国語研究所学術情報リポジトリ

「お／ご～おき（下さい）」について

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ) 作成者: 井上, 直美, Inoue, Naomi メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00002555 |

「お／ご～おき(下さい)」について

井上 直美（埼玉大学大学院人文社会科学研究科）

A study on ‘O/Go～oki(kudasai)’

Naomi Inoue (Graduate School of Humanities and Social Sciences, University of Saitama)

要旨

「ご承知おき下さい」などの「お／ご～おき下さい」という表現は、日本語教育の教材類に詳しい解説がなされていない項目である。「お／ご～下さい」であれば問題ないが、「おき」が付加されたこの表現は、上級以上の日本語学習者が気になる学習ポイントだとして先行研究で指摘されている（劉 2015）。そこで、本研究では「お／ご～おき下さい」、および「お／ご～おきいただく」、「お／ご～おき願う」、「お／ご～おきのほど」等の関連する表現も考察対象とし、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて用例調査を行い、これらのふるまいに注目した。その結果、「お／ご～おき」という表現は、ジャンル別では、国会議事録や自治体の広報で出現が顕著であること、共起する動詞の特徴としては、情報の認知（知覚・思考・記憶）を表す動詞（承知する・含む・見知る等）と出現すること、そして慣用的な表現として用いられていることが明らかになった。

1. はじめに

劉（2015）は上級レベルの日本語学習経験者（中国語母語話者）にアンケートを行い、学習経験者がどのような文法項目の使い分けに関する説明を求めているのか、どのような項目が気になるのかを調査している。その結果によると、次の(1)のような「お／ご～おき下さい」という表現は、尊敬語の項目で取り上げられる「お／ご～下さい」とは違って、さらに「おき」が付加されており、上級以上の日本語学習経験者にとって「非常に気になる」項目だという。

(1)2014年度入会の会員には送付していませんのでご承知おき下さい。【問85】

（劉 2015:161）

また、劉（2015）は、(1)について「既存の教科書等では普通は解説されていないもの」であり、「お／ご～おき（下さい）」を上級以上の学習者に提示する必要があると指摘している（劉 2015: 161）。そこで、本研究ではこの「お／ご～おき下さい」および、その関連表現について使用実態を調査し、その特徴について明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

先行研究において、「お／ご～おき下さい」という表現そのものについて論じたものは管見の限り見られない。

そのため、「お／ご～おき（下さい）」を構成する「おき」に関連し、複合動詞の後項「おく」の先行研究の記述を見ていく。複合動詞「Vおく」について論じたものには、徳本（2015）

と永澤（2016）がある。これらはいずれも通時的な研究である。

これらによると、複合動詞「V おく」は、古代から「効果の持続」の意味で用いられており、現代語の補助動詞「V ておく」には置き換えられない場合があること（徳本2015）、さらに近代において「V おく」が衰退し用法が限定化され生産性の低いものになったこと（永澤2016）が指摘されている。

このように、現代語の「V おく」は生産性の低い複合動詞となっているが、「お／ご～おき（下さい）」ではどうであろうか。本研究では「お／ご～おき（下さい）」の使用実態を調査し、どのようなふるまいを見せるのかを明らかにする。

3. 調査方法

本研究では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）を使用データに選定し、

「お／ご～おき（下さい）」、「およびその関連表現について使用実態の調査を行った。

まず、本研究で対象とする表現の条件を（2）～（4）のように設定した。

- (2) 尊敬を表す「お」、「ご」または「御」の接頭辞がついている表現を対象とする。
- (3) 「おき」と「置き」、「ください」と「下さい」などのように、ひらがな表記と漢字表記のどちらもある場合、いずれも対象とする。
- (4) 「お／ご～おき」には「下さい」以外にも「頂く」等が後接する。それらの表現も考察対象とする。また、尊敬を表す「お／ご～おられる」の形も対象とする。

次に、設定した条件の表現が網羅できるように、次のように3種の検索を実施し、そのデータを統合した。

- (5) 前方共起条件1（品詞：大分類：接頭辞）+キー（条件を指定しない）+後方共起1（書字形出現形：おき）【50件抽出】
- (6) 前方共起条件1（品詞：大分類：接頭辞）+キー（条件を指定しない）+後方共起1（書字形出現形：置き）【23件抽出】
- (7) 前方共起条件1（品詞：大分類：接頭辞）+キー（条件を指定しない）+後方共起1（語彙素：置く）AND（活用形：未然形）【7件抽出】

上記（5）～（7）の方法で、合計80件の用例が抽出できた。その中から、目視で対象外の表現（話し手が行為者であり尊敬を表さない表現、接頭辞が「お」「ご」「御」以外の表現）25件を除き、55件を本研究の考察対象とした。

4. 調査結果

「お／ご～おき」にどのような形式が後接するのか、どのような語と共に起するのか、どのようなジャンルで用いられているのかを集計した結果を以下に示す。

4. 1 後接形式別用例数

表1 「お／ご～おき」の後接形式別用例数(BCCWJ)

| 下さる 系 | を 系 | 頂く 系 | 願う 系 | れる 系 | の 系 | なさる 系 | 合計 |
|----------|--------|---------|---------|---------|--------|----------|------|
| 23 | 13 | 10 | 3 | 3 | 2 | 1 | 55 |
| 42% | 24% | 18% | 5% | 5% | 4% | 2% | 100% |

最も出現数が多いのは、「お含みおき下さい」、「ご承知おき下さいませ」のような「下さる系」である。続いて、「お見知りおきを」のような「を系」、「ご承知おき頂きたい」のような「頂く」系と続いている。後接形式には7種類が認められる。

4. 2 共起語別用例数

表2 「お／ご～おき」の共起語別用例数(BCCWJ)

| ご承知 おき | お見知り おき | お含み おき | おとどめ おき | お考え おき | お聞き おき | お話し おき | お知り おき | お認め おき | 合計 |
|-----------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| 29 | 12 | 6 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 55 |
| 53% | 22% | 11% | 4% | 4% | 2% | 2% | 2% | 2% | 100% |

接頭辞「ご」または「御」と共起するものは1種「承知」だけである。「お」と共起するものは8種出現した。「ご承知おき」、「お見知りおき」、「お含みおき」の順に出現数が多く、中でも「ご承知おき」は総数の半分を占めている。また、情報の認知（知覚・思考・記憶）に関わる動詞がほとんどである。

4. 3 ジャンル別用例数

表3 ジャンル別用例数

| 国会 会議録 | 9 文学 広報誌 | 自治体 知恵袋 | Yahoo ! ブログ | 3 社会 科学 | 2 歴史 ・美術 | 7 芸術 ・美術 | 1 哲学 婦人誌 | 合計 |
|-----------|-------------|------------|----------------|------------|-------------|-------------|-------------|------|
| 20 | 14 | 5 | 4 | 3 | 4 | 3 | 1 | 55 |
| 36% | 25% | 9% | 7% | 5% | 7% | 5% | 2% | 100% |

ジャンル別にみると、「国会会議録」、「9文学」、「自治体広報」の順に出現数が多い。このように、「お／ご～おき」は話し言葉でも書き言葉でも用いられることがわかる。

5. 考察

調査結果をふまえ、BCCWJ の用例を用いて考察を行う。その際、どのような場面で用いられるのかを中心に見ていく。なお各用例の末尾に括弧で BCCWJ のサンプル ID およびデータのジャンルを示す。また、用例中の下線、波線は筆者によるものである。

5. 1 下さる系

下さる系は 23 件中 19 件が「ご／御承知おき下さい」のタイプで、公的な立場から、事前に懸念事項を示し、聞き手に対し注意を促す場面で用いられている。

(8)所沢税務署では、今年の確定申告期間中の、2月二十四日と3月2日の日曜日に限り、確定申告の相談・申告書の受け付けを行います（現金納付の窓口業務は行いません）。当
日は混雑が予想されますので、あらかじめご承知おき下さい。

(OP23_00002 広報ところざわ)

5. 2 頂く系

頂く系は、10 件中 9 件が「～たい」を含む形で現れている。「下さる系」と比較すると、一個人の立場からの見解を述べる際、事前に懸念事項を示し、理解や配慮を求める場面で用いられている。

(9)半世紀以上、粘土ばかりいじってきて、手しごとばかりで年をとってしまったので、
あまりいまのことは話ができないと思いますが、ご承知おきいただきたいと思います。

(LBb3_00004 3 社会科学)

次の(10)は、聞き手にとって懸念事項となる情報は見られないタイプである。この場合は、注意喚起や理解・配慮求めではなく、聞き手への強い要望を表す。

(10)その不幸ができるだけ小さく終わらすためにも施策は必要あります。こういったこと
から、ぜひひとつお考えおきいただきたいことを重ねてお願いを申し上げ、戦後の後始
末の問題を申し上げましたのを機会に、もう一つの問題を申し上げさせていただきた
いと思います。

(OM25_00008 国会会議録)

5. 3 を系

を系で目を引くのは、13 例中 6 例で「お見知りおきを」が出現していることである。こ
の 6 例は全て発話文で、(11)のように初対面で名前を名乗った後に用いられている。

(11) 「今日は、君に紹介しようと此の人を連れてきたんだ。奈良本辰也だ」と、服部さんが私を紹介すると、「やあ旦那、この人もマルクスつう人の信者ですかい。政です。お見知りおきを」と、挨拶を返した。 (LBc2_00021 2歴史)

5. 4 願う系

願う系は3件で、「含み」「見知り」「承知」との共起が見られ、「願いたい」、「願います」という形式で出現している。

(12) 増田委員私が尋ねたその背景に、あなたの答弁された以上の災害なりインフレなり起きたときに考えておいて下さいよという指摘が入っている、こういうことをぜひお含みおき願いたいと思います。そして、そういう時点があつては困りますけれども、そのときには対応して下さい。 (OM61_00010 国会会議録)

5. 5 の系

の系は2件のみで「お見知りおきのほど」、「お含み置きの上」で出現している。

(13) その点でもいざれ、中村さんと笠井〔章弘〕君ともいろ／＼御相談したいと思いますが、取敢えず右お含み置きの上、現段階では平凡社の方にあまり決定的な事を言わない方がいいのではないかと愚考します。 (PB42_00222 2歴史)

5. 6 れる系

れる系は3件で、「おとどめ置かれますよう、お願ひ申し上げます」、「お見知りおかれまして、」のように用いられている。接頭辞に加え、「Vおく」に尊敬の助動詞「れる」が後接した「おVおられる」という形になっている。

(14) さて、ドミニコ会修道士フランソワなる者が当地に参られ、陛下の親書を携え、偉大なるフランス国王陛下のご高名、高貴なみ心、強大なご権勢をご披露くださいし折には、我らとしてもまことに喜ばしきことと存じ、この段、偉大なる国王陛下におかせられましても、しかとみ心におとどめ置かれますよう、お願ひ申しあげます。 (LBm2_00018 2歴史)

5. 7 なさる系

なさる系は以下の1件のみで「御承知おきなすって」という形で出現している。

(15) ですからどんな女にしましても、あなたが心に抱きつづけていらっしゃる亡き方と、あなたのお心のなかで角つきあいしたいなどと思うものは、一人もおらないことを、よくと御承知おきなすって下さいまし。なれば、キリスト教的慈悲の念から、愛してくれとあたくしに懇願なさいましたわね。 (LBL9_00034 9文学)

6. まとめ

「お／ご～おき」という表現は、共起する動詞が少なく、生産性が低い。共起するのは、情報の認知（知覚・思考・記憶）に関わる動詞であることが特徴として挙げられる。

基本的な意味として、聞き手に対し情報を事前に示して、「その情報を認知し維持することを求める」場合に用いられる。

使用場面については、公的な立場から懸念事項を示す注意喚起には「お／ご～おき下さい」、一個人の見解や事情を事前に示して、理解や配慮を求める場合には「お／ご～頂きたい」が用いられることが多い。また、初対面の相手に対し自分のことを見えていてほしいという要望を述べる場合に「お見知りおき」が用いられる。これは慣用的に用いられる。

また、聞き手に対し、懸念事項が示されず、「お／ご～おき」が用いられた場合は、情報の認知と維持を目的とする点は同じであるが、話し手の強い要望を表す表現となる。

7. 今後の課題

本研究では、BCCWJ を用いて現代日本語の「お／ご～おき下さい」を中心にその関連表現について記述的に特徴を述べた。複合動詞「V おく」や補助動詞「V ておく」とどのような関係が認められるかについては通時的な分析も必要である。これについては今後の課題としたい。

参考文献

- 徳本文 (2015) 「古代語複合動詞の後項「おく」について」『立教大学大学院日本文学論叢』, (15), pp.179-189.
- 永澤済 (2016) 「複合動詞「V おく」の用法とその衰退」『名古屋大学日本語・日本文化論集』, (24), pp.27-44.
- 劉志偉 (2015) 「学習者から見た文法シラバス」庵功雄・山内博之 (編) 『データに基づく文法シラバス』, くろしお出版, pp.147-165.

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
(中納言 2.4 データバージョン 1.1 最終閲覧日 2019 年 7 月 18 日)